日本小児アレルギー学会誌　投稿規定補足

略語の使用に関する目安について

1. 略語使用の一般的な目安

論文中では、幅広い読者が理解できる記載を目指すため、略語の使用は避けることが原則である。ただし、論文中に同じ用語が繰り返し 3 回以上使用され、フルスペルの繰り返しが読みやすさを妨げる場合は、略語を使用することができる。用いる略語はアレルギー用語集又は小児科用語集などに定義されているものを使用し、新たな造語はできるだけ避けることが望ましい。

2. 略語の記述

1）原則として、論文中に使用する略語は、抄録および本文それぞれに初出の際に、フルスペル（略語）を記載する。

＜記載例＞

高 IgE 症候群（hyper IgE syndrome, HIE）、major basic protein（MBP）

2）日本語名が英語フルスペルのカタカナ読み、あるいは英語フルスペルより略語の方が一般的に使用される用語については、英語のフルスペルを省略することができる。ただし、これらの略語については、略語リストに英語フルスペルを列記することが必要である。

＜記載例＞

サイトメガロウイルス（CMV）

加圧噴霧式定量吸入器（pMDI）、食物経口負荷試験（OFC）、呼気一酸化窒素濃度（FeNO）

ロイコトリエン（LT）、プロスタグランジン（PG）、トロンボキサン（TX）

3. 略語のみで使用できる用語（表参照）

略語が一般的な用語として定着しているものについては、フルスペルを省略して略語のみで使用することができる。ただし、文脈の中で略語のみでは意味が読み取りにくい場合は、フルスペル（日本語の正式な単語）で記載する。

＜記載例＞

〇血液検査において、血清 BUN、Cr 高値が認められた。

×免疫細胞間の情報伝達を行うために、リンパ球から各種 IL や IFN が産生される。

表　略語のみで使用できる単語の例

臨床検査項目として略語が一般的な単語
例：TP, BUN/Cr, AST/ALT, CRP, ACTH, CT, MRI
検査法や測定単位として略語が一般的な単語
例：IU, NT, EIA, ELISA, HI, T1 強調画像
化学記号、化学物質名として一般的な単語
例：Ca, Na, K, NOx, PM2.5, DNA, mRNA, cAMP
免疫学用語として、フルスペルより一般的な略語
例：IgE, IgG, CD4, IL-2, IFN-γ, TNF-α, NF-κB, FcεRI, Th2, FoxP3
薬剤名として一般的な単語
例：BCG, ST 合剤,
基本的な統計用語として一般的な単語
OR, RR, CI
登録商標、公式名称、一般名として定着している単語
例：MAST システム, WHO, QOL, AED

日本小児アレルギー学会編集委員会

作成　2024 年 9 月